

問屋街の
次代を担う

〈我が社のホープ ①〉 シモジマ馬喰横山店

問屋街にとって新人は次代に向けた活力を生む。シモジマ馬喰横山店に今年、4人の新人研修生が配属された。同社は入社後1年間の売り場研修を経て各部に配属される。新型コロナウイルスに翻弄され続けた彼らは「仕事を続けられたのは先輩方のおかげ」と口を揃える。



山根 裕太
5 階担当

ことの大事さを痛感しています。お客様には教えていただくことばかりです。その中で

5階は熨斗紙やご祝儀袋など、冠婚葬祭に使われる商品です。それぞれに決まりごととしきたりがあり、売り場の私たちが間違えてお客様にお伝えすると、お客様自身が公の場で恥ずかしい思いをしてしまいます。それだけに商品事の知識を学ぶことの大切さ、お客様の立場になって考える



山根 裕太
5 階担当

私たちが扱う商品は一般の人とはあまり気に留めない商品かもしれない。でも、ご商売

接客できる仕事につきたい。母は昔からシモジマで買物をしており、就活のときに勧められました。入社してからは無我夢中で仕事をしてきた気がしています。接客や商品の販売だけではなく、接客も勉強していきたい。そしてフロアを任せてもらえる力を付けていきたいと思っています。



山根 裕太
5 階担当

少しでもお力になれたのではないかと考えています。店内のPOPや

接客や販売は先輩方から親身に教えていただきました。販売の現場にすることで会社売りの現場に貢献しているという実感が持てました。今は食品パッケージやベーパータオルを担当しています。パッケージやベーパーのフロアです。飲食店の方々がテイクアウトに力を入れるようになって、たくさんの商品を作っています。



山根 裕太
5 階担当

取り組む姿勢を打ち出しました。新しい素材や機能などを覚えることはとても大変でした。

新型コロナウイルスで不安はありましたが、先輩方の指導で必死に仕事をしてきたというのが正直な感想です。担当しているのはレジ袋を扱っているフロアです。7月に有料化され、お客様も少し混乱していました。店舗では地球環境に配慮したレジ袋を導入して、全社で環境問題に